

製品名: ピルビン酸脱水素酵素 E1 α ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe21508

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:43kD;Observed MW:43kD

抗原情報

遺伝子名	PDHA1
別名	PDHA1;PHE1A;Pyruvate dehydrogenase E1 component subunit alpha;somatic form, mitochondrial;PDHE1-A type I
遺伝子 ID	5160.0
SwissProt ID	P08559
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

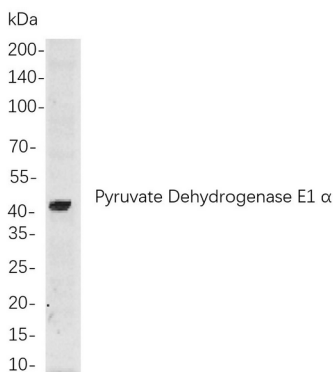
背景

細胞局在: ミトコンドリアマトリックス。ピルビン酸脱水素酵素 (PDH) 複合体は、核コードされたミトコンドリア多酵素複合体で

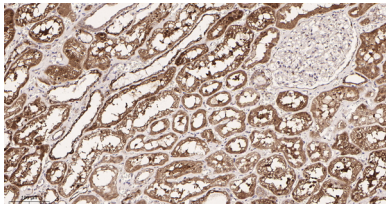
あり、ピルビン酸からアセチル CoA と CO(2)への変換全体を触媒し、解糖系とトリカルボン酸 (TCA) 回路を結ぶ主要な経路として機能する。PDH 複合体は、ピルビン酸脱水素酵素 (E1)、ジヒドロリポアミドアセチルトランスフェラーゼ (E2)、リポアミド脱水素酵素 (E3) という3つの酵素成分の多重コピーから構成される。E1 酵素は、2つの α サブユニットと2つの β サブユニットからなるヘテロ四量体である。この遺伝子は、E1 活性部位を含む E1 α 1 サブユニットをコードし、PDH 複合体の機能において重要な役割を果たしている。この遺伝子の変異は、ピルビン酸脱水素酵素 E1 α 欠損症およびX連鎖性リ-症候群と関連している。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写変異体が見つかった。[RefSeq 提供、2010年3月]

研究分野

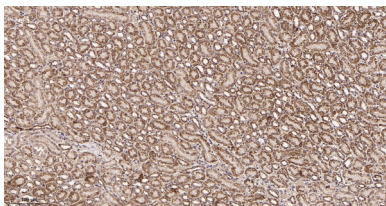
画像データ



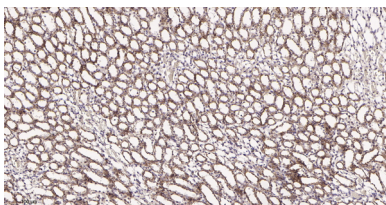
HEK293 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。ピルビン酸脱水素酵素 E1 α ウサギ mAb を用いた。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。



パラフィン包埋ヒト腎臓組織の免疫組織化学分析。1、ピルビン酸脱水素酵素 E1 α ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2、抗体賦活化には EDTA pH 9.0 を使用 (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋マウス腎臓組織の免疫組織化学分析。1、ピルビン酸脱水素酵素 E1 α ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2、抗体の回復には EDTA pH 9.0 を使用 (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ラット腎臓組織の免疫組織化学分析。1、ピルビン酸脱水素酵素 E1 α ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2、抗体の回復には EDTA pH 9.0 を使用 (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。